

大学から地域の元気を応援する取組 ～地域連携の種まき実践例～



2021年8月25日

広島大学 学術・社会連携部 地域連携部門
三戸里美
(mitomito@hiroshima-u.ac.jp)

今日の進め方



前半（60分）自己紹介と広島大学の事例紹介

後半（60分）グループディスカッション

- ディスカッションテーマ
地域・学生・教員からみた地域連携活動のメリット
- 時間配分
グループワーク・まとめ 20分
グループ発表 30分（1グループ 発表・質疑応答で5分）
まとめ・質疑応答 10分

2

今日の進め方



ねらい

- 職員の立場から、地域と教員・学生をつなぐ事例を紹介。
- 地域からの相談を、先生の教育・研究活動につなぎたい職員の体験談のあれこれから、よりよい方法を考えてください。

到達目標

- 職員が地域連携活動を通じて学生・教員とのネットワークを広げる事例について説明できる。
- 地域連携事業の大学・地域双方のメリットについて理解する。
- 地方創生における大学の役割について理解する。

3

自己紹介



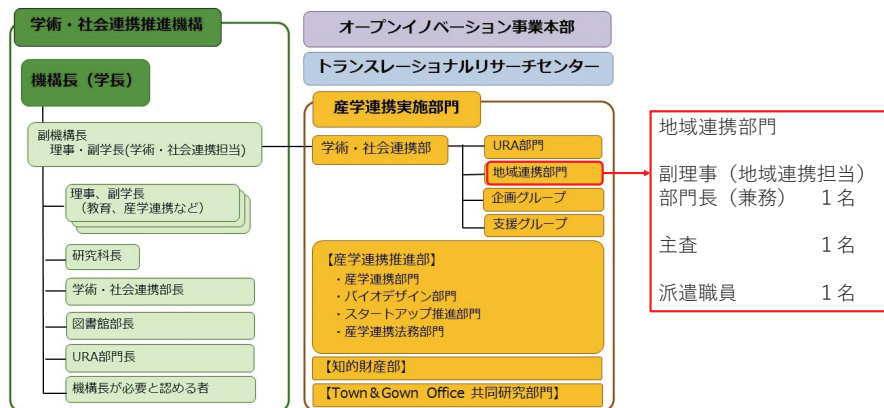
氏名：三戸 里美
所属：広島大学
学術・社会連携室
学術・社会連携部 地域連携部門
役職：主査

これまでの主な経歴：
教務システム「もみじ」の開発・運用プロジェクト
公式ウェブサイトシステム構築・データ移行プロジェクト
心に残る言葉：

スティーブ・ジョブズ（スタンフォード大学卒業式のスピーチ）
“我々はいまやっていることがいずれ人生のどこかでつながって
実を結ぶだろうと信じるしかない。”

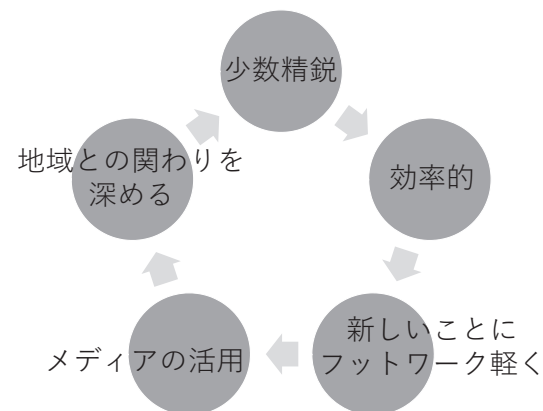
4

1. 広島大学地域連携体制



5

2. 地域連携部門の方針



6

3. 地域連携部門の業務

(1) 業務概要



- 自治体、地域団体等との連携窓口・ネットワーク作り
- 防災・減災研究センターにおける社会連携活動
- 自治体と連携した国際交流拠点施設の整備
- 東広島市とのニューモビリティに関する実証実験支援
- COC後継事業における学生生活動支援
- 公開講座の実施

7

(2) 防災・減災研究センターの社会連携支援



連携自治体会議の開催（年1回）

クラウドファンディングによる
実証実験プロジェクト



8

(3) 国際交流拠点施設の整備



9

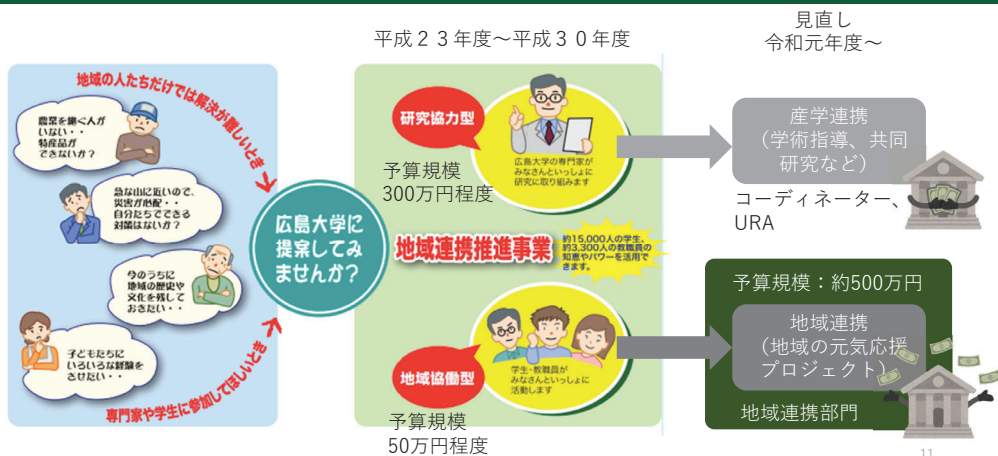
(4) キャンパス内での自動運転シャトル運行



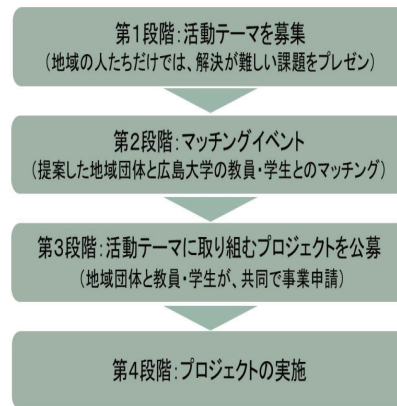
10

4. 地域の元気応援プロジェクト (地域連携推進事業)

(1) 事業の経緯



(2) 事業の概要



助成額及び採択件数

- 助成額：原則として50万円以内
- 採択件数：10件程度

助成対象経費

- 教員に予算配分
- 本学の会計基準に沿って執行
- メンバーへの謝金は不可

審査委員会の設置

- 学内：学術・社会連携室、教育室
- 学外：東広島市

地域の課題と大学のマッチングが重要

12

(3) 令和3年度の状況



地域からのテーマ応募 16件

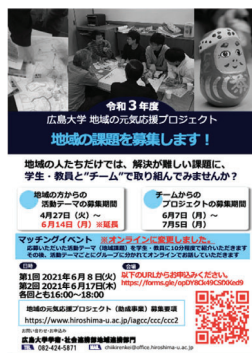
↓ マッチング

地域の元気応援プロジェクト申請 12件

- ・ マッチングイベント 6件
- ・ 自力で結成 1件
- ・ 令和元年度からの継続 5件

↓

採択 12件



13

5. 地域連携事業の見直しのポイント



1 地域連携テーマの掘り起こし

- ・ 「広大＝敷居が高い」と感じている地域の人とのつながりを開拓

2 教育・研究フィールドの拡充

- ・ 学生の目を地域に向ける
- ・ 課題解決型教育のフィールドを探す
- ・ 研究の社会実装に向けた地域協働

3 学生・地域の方の成長

- ・ 学生は、自分が学ぶ専門分野が地域で必要とされているという気づき
- ・ 地域の活性化は自分たちの手でできるという地域の方の意識変化

14

6. マッチングイベントとは？ (1) マッチングイベントのねらい

地域の方と学生・教員の出会いを機に、新しい体験をする

- ・ 地域の方：自分たちの課題を発表する場
- ・ 学生：社会人と話をする場、興味のあるテーマを探す場
- ・ 教員：教育・研究フィールドを探す機会を得る



15

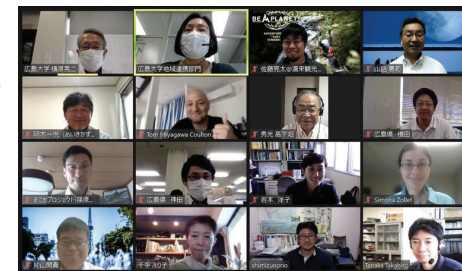
(2) 令和3年度のマッチングイベント



マッチングイベント応募 10件

自治会、NPO、任意団体などが応募

↓ マッチング成立 6件



マッチングイベント開催の成果

- ・ 地域から積極的な活動テーマの提案
- ・ 自治体（広島県、呉市など）からの協力
- ・ 中国新聞（地元紙）に掲載

16

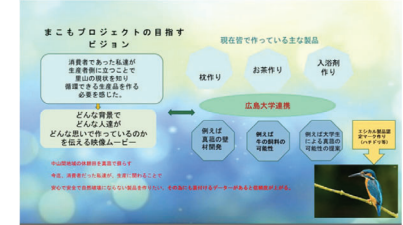
(3) マatchingイベントの提案テーマ



1	安浦の魅力と人と地域をかき混ぜるIT革命（呉市安浦町）	任意団体
2	呉の歴史と街並みの魅力を再発見する「まち歩き」のコース整備と観光ビジネスへ向けてのコンテンツ化（呉市）	一般社団法人
3	「西志和歴史の散歩道」内にある古代遺跡「神宮寺麴西壇坊跡・金剛岩縄文古墳」への遊歩道整備が完成につき歴史学術的検証と活用を検討したい（東広島市志和町奥屋）	自治会
4	安佐町飯室出身の丸木位里さんの作品を通じて、平和について考えるきっかけづくりを行い地元で丸木位里・俊さんに関するマップを作成することで地域活性化につなげる（広島市安佐北区飯室）	駅運営委員会
5	コロナ禍での持続可能な地域活動のための文化・情報基盤創生プロジェクト（東広島市高屋町小谷）	地域団体
6	とびしま海道地域における移住促進。移住体験ツアーの実施。とびしま海道の魅力を再発見し、移住希望者に伝えやすいツアーを組み立てる（呉市豊町御手洗）	地域団体
7	湯来町における、オオサンショウウオの生態調査と環境保全（広島市佐伯区湯来町）	NPO
8	「みんなの夢アイデア」の実現で「呉をワンダーランドに！」（呉市）	コンテスト実行委員会
9	小原「小屋のまち」プロジェクト（安芸高田市甲田町）	NPO
10	①真菰という植物の可能性を大学の研究レベルで取り組めないでしょうか？②私達が真菰を里山で蘇らせる活動をする意義（自然の循環システム）をわかりやすく伝えるショートムービー作成	NPO

☀️: 採択事業

(4) マatchingイベントの提案テーマ



(5) マatching成功の傾向



- 1 解決したい地域課題が明確
- 2 関わる研究分野がイメージできる
- 3 提案者（提案団体）に主体的に企画・実施を行った経験がある
- 4 大学（研究者）と以前からつながりがある

(6) 事務担当者としてのポイント



- 1 日頃からの教員の研究・地域貢献活動を情報収集
 - ・研究者総覧
 - ・新聞、大学のウェブのお知らせ記事
- 2 メディアの活用
 - ・にぎやかなところに人は集まる
- 3 自治体の担当者とのネットワーク
 - ・いろいろな人を經由して広げることができる

テーマ	地域団体名	教員	
※レモンと共生する島 賑わい創出の島づくり	せとだレモン祭実行委員会	人間社会科学研究科	准教授・富永 美穂子
※楽しい飲みん茶い	まほろばくろたに	人間社会科学研究科	准教授・伊藤 奈保子
コロナ禍での持続可能な地域活動のための文化・情報基盤創生プロジェクト	土里夢創房 あぐり	先進理工系科学研究科	助教・佐々木 豊(責任者) 准教授・造賀 芳文 教授・餘利野 直人
※中山間地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を作ろう	つくれば工房	統合生命科学研究科	准教授・彦坂 暁
丸木位里と故郷・飯室 マップ作成、作品調査プロジェクト	プラットホーム安芸飯室運営委員会	人間社会科学研究科	准教授・多田羅 多起子
島地域活性化「半学半創」ドキュメンタリー映画プロジェクト	潮祭(https://shio-sai.net)	人間社会科学研究科 (国際共創学科)	助教・渠 蒙
小原の憩いの場づくり「小屋のデザインプロジェクト」	NPO 法人ぶらっとほーむ小原	先進理工系科学研究科	教授・田中貴宏
※三段峡ミュージアム構想	特定認定NPO法人三段峡一太田川流域研究会(さんけん)	統合生命科学研究科	教授・中坪 孝之
地域と大学が連携した湯来町における、オオサンショウウオの基礎生態調査と環境保全活動	NPO 法人湯来観光地域づくり公社	総合博物館	准教授・清水 則雄
移住体験ツアーの開発 × とびしまライフ	とびしまライフ	産学連携推進部, スタートアップ推進部門	助教・Zollet Simona
「みんなの夢アイディア」の実現で「呉をワンダーランドに!」	呉自社商品開発協議会	人間社会科学研究科	准教授・川田 和男
※久比地区の水利利用等住環境に関するサステナビリティの確立のための広島大学の瀬戸内拠点造り(水利実実践編)	一般社団法人まめな	先進理工系科学研究科	教授・小野寺 真一

※：令和元年度からの継続事業

(7) 地域の元気応援プロジェクトの紹介

丸木位里と故郷・飯室 マップ作成、作品調査プロジェクト (新規)

地域：プラットホーム安芸飯室運営委員会

教員：多田羅多起子(人間社会科学研究科造形芸術教育学領域 准教授)

丸木位里と故郷・飯室 マップ作成、作品調査プロジェクト

丸木位里(1901-95)
安芸町飯室出身。原爆投下直後の広島を筆・赤松俊子(丸木位)と主に画いた連作「原爆の図」の作者として知られる。

旧安芸飯室駅舎
廃線となった可部線の廃線跡の一部や旧駅舎の保存活用。2017年から4回にわたって「原爆の図」の複製展示を実施

マップ作成

- 聞き取りや関連書籍による丸木位里ゆかりの地の抽出
- 情報整理、マップ作成
- マップ配布と旧安芸飯室駅舎での掲示(→地域拠点化)

作品調査

- 地域所有作品の調査(公民館、社寺、個人所有)

展示と講演会

- 郷土の画家再認識の機会として地元公民館に専門研究者を招き講演会を開催
- マップ作成の過程で得られた知見をまとめてパネル展示

地域と学生・教員の協働 地域の価値を再発見し次世代へつないでいく

丸木位里に関するマップ作りや講演会の実施、成果の展示を通じて

- 郷土の画家を再認識し地域で作品を保存する
- 高齢化により記憶の伝承が途切れないよう、平和について考え話し合うきっかけづくり
- 平和発信の場としてアピールし、安佐町への訪問者を増やす

(7) 地域の元気応援プロジェクトの紹介

地域と大学が連携した湯来町における、オオサンショウウオの基礎生態調査と環境保全活動 (新規)

地域：NPO法人湯来観光地域づくり公社

教員：清水則雄(総合博物館 准教授)

湯来町における、オオサンショウウオの生態調査と環境保全



(7) 地域の元気応援プロジェクトの紹介

楽しい飲みん茶い (継続)

地域：まほろばくろたに

教員：伊藤 奈保子(人間社会科学研究科文化財学分野 准教授)



2021年度

「楽しい飲みん茶い」
→尾道帆布袋・湯呑セット

まほろば黒谷 15名
立花学キヌスタイル研究所
宮島宗元(川原齋楽堂・川原圭斎堂・山根対齋堂)
テーブルコーディネーター(菅生美希氏)
広大生(10名)

(8) プロジェクトの発展



① 拠点づくり

- 地域に学生の活動拠点を整備（空き家活用を兼ねる）

② 研究プロジェクトのフィールド

- 研究プロジェクト、卒論のフィールドとして活動

③ 地域の活動に展開

- 地元高校への訪問・講義

④ 外部資金の獲得

- 自治体の支援、企業等とのコラボなど

25

7. 学生の地域活動の現状



学生の地域での活動経験（広島大学学生生活実態調査から）

		令和2年度	平成29年度
ボランティア・地域活動経験	地域活動（町内会など）	8.9%	31.1%
	活動なし	61.7%	50.2%
アルバイトの目的	就職準備や社会経験	37.8%	35.9%

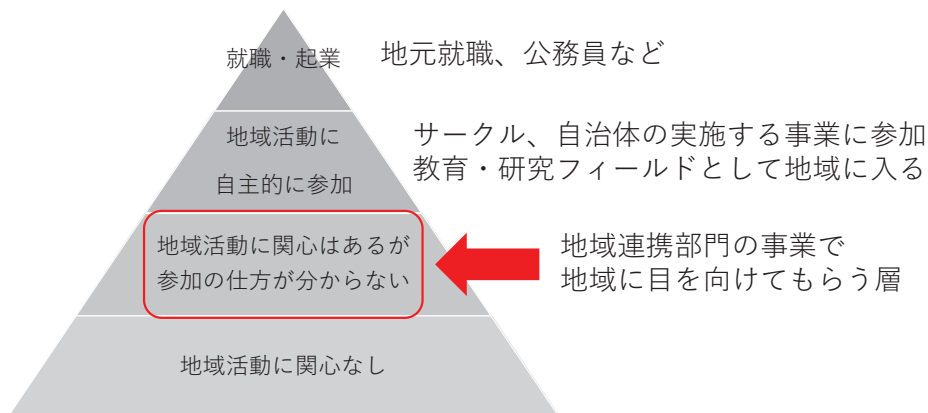
- 令和2年度は、コロナの影響で地域活動などを含め課外活動禁止
- 一方で、アルバイトなどにコロナの影響は少ない

地域活動と就職先の関係（COC関連の研究成果から）

- 地域理解を促す教育だけでは地元就職につながりにくい
- 地域で活動する経営者の姿をみた影響はないのか？

26

8. 学生の地域活動への関心



27

9. 地域の元気応援プロジェクト今後の課題



① 立ち上がったプロジェクトをどこまで支援するのか

- プロジェクトの自立化、外部資金獲得
- 企業のCSR活動との連携の模索

② サークル、自治体の事業との微妙な重複の整理

- 自治体の課題解決型補助事業
- 学生のボランティア団体などの活動

③ 「脱・大都市」地方での起業＝地域課題の解決が増える

- 学生の地元就職問題
- 地域課題解決でご飯が食べられるのか

28

ここからは、グループディスカッションです

ディスカッションテーマ

地域・学生・教員からみた地域連携活動のメリット

メンバー間で、自身の大学の地域連携活動を共有してください。
その後、学生、教員、地域の3者の視点から、
「活動で得られること」をまとめてください。

時間配分

- ・グループワーク・まとめ 20分
- ・グループ発表 30分（1グループ 発表・質疑応答で5分）

まとめ・質疑応答 10分

地域・学生・教員からみた地域連携活動のメリット ワークシート

地域・教員・学生のそれぞれの立場で得られると思われる経験や知識、成果などを文字にしてみましょう。

	地域連携活動のメリット
地 域	
教 員	
学 生	